

彩の国さいたま 県北・県西の 自然を楽しむハンドブック



埼玉県のマスコット「コバトン」



日本第四紀学会



目次

はじめに	2
さまざまな自然をたずねてみよう	
0. このハンドブックの使い方	5
1. なぜ川岸に灯ろうがあるの？：中山道と神流川	6
2. 東京駅にそっくりな深谷駅：深谷のれんが	8
3. 伝統を守る匠の技：いぶし銀の深谷瓦	10
4. 深谷駅周辺の坂 ―深谷断層―	12
5. みかんより甘い深谷ねぎのひみつ	14
6. 冬のからっ風を防ぐ知恵：屋敷林	16
7. 寄居で地球の営みを考える：荒川の段丘	18
8. 日本百名水「風布（ふうっぶ）の水」	20
9. 天下の景勝地「長瀬（ながとろ）」	22
10. 日本の地質百選「ようばけ」	24
11. 宮沢賢治・青春の旅：歌碑をめぐる	26
12. 海なし県にも砂丘がある：河畔砂丘	28
13. 埋もれつつある古墳	30
14. 埼玉県の魚「ムサシトミヨ」	32
15. 埼玉県発祥の地：さきたま古墳群	34
16. 古代からの花の使者：古代蓮	36
17. 荒川のつけかえと昔の川のあと	38
18. 川幅日本一	40
19. 山にぼこぼこ開いた穴は何？：吉見百穴	42
20. こんな家に住みたい：西川材の家	44
21. 飯能の里地里山おすすめスポット	46
22. 植物とゾウの足跡の化石をさがそう	48
23. 埼玉にもいたゾウ：アケボノゾウ	50
24. 大宮台地の中山道の秘密	52
25. トトロのふるさと：狭山丘陵	54
26. 埼玉県立川の博物館	56
27. 埼玉県立自然の博物館	58
28. 日本地質学発祥の地：ジオパーク秩父	60
29. 里地里山の宝さがし！エコツアーのまち飯能（はんのう）	62
30. トトロの森：ナショナル・トラスト活動	64
おわりに	66

はじめに

日本第四紀学会のイメージ



日本第四紀学会は、過去 250 万年間の自然、環境、人類について調べている人の集まりです（日本第四紀学会 HP <http://quaternary.jp/>）。2012 年 8 月に埼玉県熊谷市の立正大学において研究大会を開催し、11 月には、市民を対象とした身近なものから埼玉の自然に親しむ野外見学会とミニ講演会を実施しました。日本第四紀学会では研究成果を社会に還元するアウトリーチ活動に積極的に取り組んでいます。

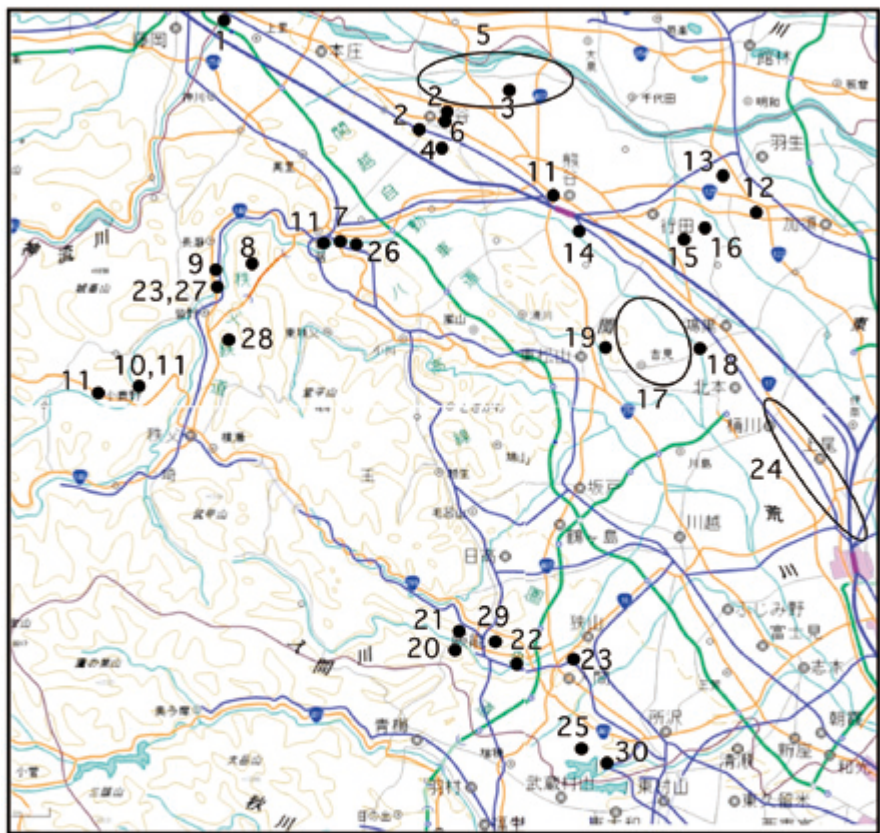
このハンドブックは、野外見学会とミニ講演会の内容をも

とに作成しました。自然そのものだけでなく、自然と人間との関わりにも目を向けて、このガイドブックを片手にさいたま県北・県西の自然を楽しんでいただければ幸いです。

埼玉県は「ださいたま」や「さいたま都民」などと言われるように、あまり良いイメージがありません。都道府県民の愛着度は全国で最低です（株式会社ブランド総合研究所のHP、http://tiiki.jp/corp_new/pressrelease/2010/20101021.html）。県民の意識もぱっとせず（埼玉県のHP、<http://www.pref.saitama.lg.jp/page/kani1.html>）、長く住み続けたいという思いも低いです（例えば、三郷市のHP、<http://www.city.misato.lg.jp/secure/5164/misato%20概要版.pdf>）。

地元の良さは、案外地元の人には知られていないものです。あまりに当然なので、あえて気付かないのでしょうか。そのような身近なもの、その中でも自然と人間との関わりを知って、もっと地元、さいたまのことを好きになってほしいです。さいたまが好きになったら、さいたまの将来も考えてほしいです。特に、今後の日本の社会を担う青少年に、そのようなことを期待します。（植木）

さまざまな自然をたずねてみよう



国土地理院 電子国土 Web より作成

0. このハンドブックの使い方

このハンドブックでは、さいたま県北・県西の自然と人間の関わりを、写真と文章で解説しています。内容の難しさは、小学校高学年から中学生にわかる程度です。

各地点に行くための道路地図は、MapFan の HP (<http://www.mapfan.com/>) の地図を使っています（地図を使用する許可をいただいています）。MapFan の地図は、国土地理院の地形図と同じ縮尺（5 万分の 1，2.5 万分の 1）になるので、地形図と比べるときに便利です。

地形図は国土地理院の電子国土 Web NEXT の HP (<http://portal.cyberjapan.jp/site/mapuse/>) で見たり、印刷できます。ページの上の方の十進というボタンを押して、中心北緯、東経の欄に行きたい地点のハンドブックにのっている緯度、経度の数字を入れると、その地点の地図が表示されます。ただし、縮尺が小さいので、地図の左側の＋マークを何回か押して下さい。

内容について、もっと知りたいときや疑問がある時には、一番後ろのページの問い合わせ先にご連絡下さい。追ってお返事をいたします。（植木）

1. なぜ川岸に灯ろうがあるの？：

中山道と神流川



左の写真は埼玉県上里町の大光寺にある灯ろうです。この灯ろうは、元々江戸と京都を結んでいた江戸時代の街道である中山道脇の神流川（かんながわ）の右岸にあったものを寺に移設したものです。対岸の群馬県高崎市新町にも同じように川岸に灯ろうがあり、現在復元されたものが国道17号沿いにあります。夜に火の明かりをつけていたので、常夜灯とも呼ばれていました。神流川は、江戸時代までは武州と上州の国境、明治時代からは埼玉県と群馬県の県境となっています。

なぜ、神流川の両岸に灯とうがおかれていたのでしょうか？これには、神流川がつくる地形が大きく影響しています。このあたりの神流川は山地から平野に変わるところを流れてい

て、流れが急に緩くなるため、上流から運ばれた石がここに堆積しています（右の写真）。現在の川は堤防によって、流路は固定されていますが、昔は自由に流れていて、長い年月の間に石からなる扇状の地形（扇状地）をつくっています。江戸時代においても神流川の流路は洪水が起こるたびに変わっていたので、橋や道を整備することが難しかったのです。そのため、対岸の中山道の位置がわかる目印として、兩岸に灯ろうがおかれたのです。当時、中山道は東海道に次ぐ日本の大動脈でしたので、多くの旅人が不慣れな道を歩いていました。旅人が迷いやすいところで、灯ろうがあることにより、安全に通行できたのです。

なお、大光寺の近くには、江戸日本橋から23里（約92km）の勅使河原の一里塚跡もあります。一里塚は、旅人が歩いた距離の目安として設置されていたものです。（熊原）

アクセス

児玉郡上里町勅使河原 1864（大光寺）

北緯 36 度 15 分 51 秒 東経 139 度 7 分 23 秒



（電車）

JR 新町駅から徒歩 20 分

（車）関越道本庄児玉 IC から
15 分

2. 東京駅にそっくりな深谷駅：深谷のれんが



JR 深谷駅正面

橋脚がれんがで
できた福川鉄橋

JR 深谷駅は東京駅にうり二つです。それもそのはず、深谷駅は東京駅をまねているのです。東京駅は、2006 年まで操業

していた深谷市上敷免にある日本煉瓦製造（株）のれんがを使って、1914年（大正3年）に造られました。

日本煉瓦製造のれんがは、当初利根川を船で運んでいましたが、1895年からは深谷駅まで鉄道で運ぶようになりました。しかし、鉄道は1975年に廃止され、その跡は遊歩道に整備され、福川鉄橋が遊歩道脇に保存されています。遊歩道はゆるくカーブしていて、周辺の道路のパターンと合わないことが分かります（地形図で遊歩道を探してみましょう）。

深谷のれんがは、利根川が洪水の時に運んできた泥を原料にしています。れんがは利根川の恵みなのです。（植木）



アクセス

深谷市原郷（福川鉄橋）

北緯 36 度 12 分 19 秒

東経 139 度 17 分 50 秒

（電車）

JR 深谷駅から

徒歩 30 分

（車）

関越道花園 IC から

から 20 分

3. 伝統を守る匠の技：いぶし銀の深谷瓦



深谷はれんがが有名ですが、かつては瓦（かわら）の一大産地でした。瓦はもともと江戸時代から作られていたましたが、太平洋戦争後から昭和 48 年ごろにかけて最も多く作られました。窯（かま）は、最も多いときには 150 以上ありましたが、現在はたった 4 つしかありません。

深谷の瓦は、手作業でていねいに 1 枚 1 枚作られています。瓦は、いぶしと呼ばれる銀色のつやと光沢が長持ちするのが特徴です。しかし、1 枚の瓦はたった菓子パン 1 こくらいの値段しかつきません。

深谷の瓦は、れんがと同じように、利根川が洪水の時に運

んできた泥を原料にしていました。泥は利根川から 1.5 km 以上離れた所のものを使っていました。それより川に近いと、砂が多くて瓦には適さないそうです。現在は、泥を掘ることができなくなったので、全国から買ってきた泥を混ぜて使っています。また、昔は、群馬県の松の木を燃やして瓦を焼いていましたが、今はガスで焼いています。このように、瓦は地元の地形、地質、植生と密接に関係しています。

熊谷市市ノ坪にある小林瓦製造所は、今も手作業で瓦を作っています。あらかじめ連絡を入れれば、見学もさせてくれるそうです。（植木）

アクセス



熊谷市市ノ坪 473

小林瓦製造所

048-588-0566

北緯 36 度 12 分 54 秒

東経 139 度 20 分 33 秒

(電車)

JR 籠原駅からタクシー

(車)

関越道花園 IC から 30 分

東北道羽生 IC から 20 分

4. 深谷駅周辺の坂 ー深谷断層ー



写真には、手前側が高い何の変哲もない坂道が写っています。相当ゆるやかに見えますが、坂の上と下では数mほどの高さの差がありました。

平野部での坂は、一般的に台地や低地という川の侵食と土地の隆起が組み合わさってできた段差を、道がまたぐときに作られます。水が得にくい高台の台地には畑が作られ、水が得やすい低地には水田が広がるという土地利用がなされます。

しかし、この写真では坂の下に水田は広がっていません。街の中だから水田がないのではなく、実はここも台地の上なのです。それでは、なぜ坂があるのでしょうか。

実はこの坂は、かつて大地震によって地面に段差が生じた際に、明白な食い違いとならずに地面が曲がってしまった場

所なのです。この原因となった断層を深谷断層と言います。

深谷断層は活断層で、今後も地震を発生させ、地面の段差を生じさせる断層です。大地震は数千年ごとに起こると言われていますが、詳しいことはよく分かっていません。

ここから北西方向にある深谷駅にかけて断層が走っていますが、断層を南北に横切る道路は、このような坂道になっています。また深谷駅南口に面した滝宮神社の境内も、入り口の鳥居の立つ地面と奥の社殿のそのの高さは数m違っています。さらに、境内の池、駅南口からすぐの下台公園の池は、断層による湧き水が溜まった池です。これも深谷断層の仕業なのです。（宮嶋）

アクセス

埼玉県深谷市上柴町西5丁目（日本赤十字病院）

北緯 36 度 11 分 3 秒 東経 139 度 17 分 45 秒付近



（電車）

JR 深谷駅から
徒歩 20 分

（車）

関越道花園 IC から
15 分

5. みかんより甘い深谷ねぎのひみつ



深谷市は、ねぎの生産量が日本一です。深谷市で栽培された「深谷ねぎ」と呼ばれ、全国的なブランドになっています。深谷では、明治時代の中ごろまで藍（あい）や養蚕のための桑畑が広がっていましたが、徐々にすたれていきました。その代わりに、ねぎの生産が増えていきました。

深谷の低地では、台地の上で見られる関東ローム層の赤土がありません。低地は利根川の洪水のたびにはんらんして、砂や泥が厚く堆積した場所です。人間には住みにくい場所でも、土がやわらかく、栄養分が多いので、ねぎの栽培には適しています。その典型的な場所は、妻沼低地です。

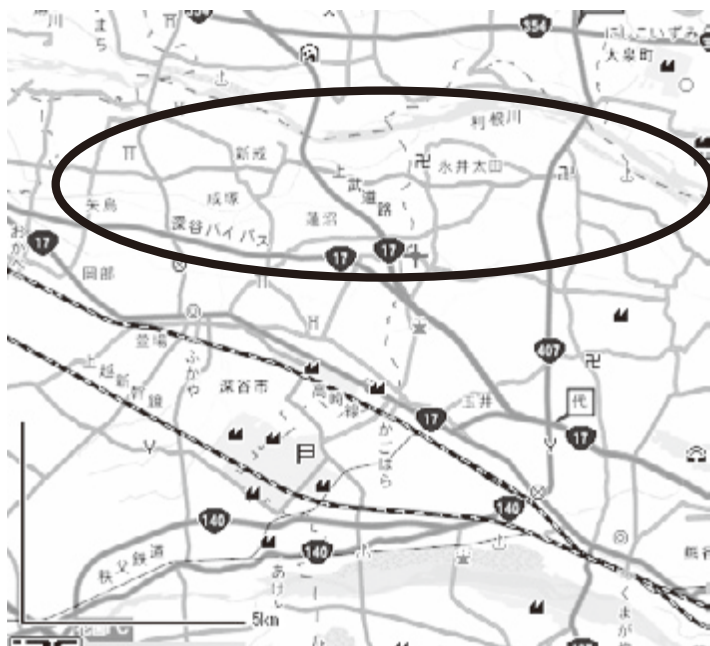
深谷ねぎの特徴は、甘くてやわらかいことです。白い根の部分は、みかんより甘さ（糖度）があります。ただし、緑の葉の部分は当然辛いです。

深谷には「おねぎのマーチ」という踊りがあります。深谷市の農産物の PR のため、その音楽は深谷駅の発車メロディに採用されました。（植木）

アクセス

（電車・バス） JR 深谷駅，籠原駅，熊谷駅からバス
<http://www.knet.ne.jp/~ats/t/ka/kuma/menubmap.htm>

（車） 関越道花園 IC，東北道羽生 IC から 15～30 分



妻沼低地

6. 冬のからっ風を防ぐ知恵：屋敷林



埼玉県北部は夏の暑さで有名ですが、冬の寒さも相当なものです。関東平野では、冬になると、からっ風と呼ばれる北風が強く吹きます。シベリアからの湿った冷たい風が新潟県で雪を降らせ、山を越えてからは乾燥した冷たい風になります。この風を防ぐために、古い家の北側にはカシやケヤキなどが植えられています。この家の回りの林を屋敷林や屋敷森と言います。昔の人は、木を切ってまきや炭にして、料理に使いました。また、落ち葉を畑の肥料にして、作物を作りました。

最近では、屋敷林はどんどん切り倒されて減りつつあります。

そうすると、冬はからっ風がもろに当たって寒く、夏は日影がないので暑くなりそうです。省エネルギーと景観のために、屋敷林という昔の人の知恵をもう一度見直す必要があります。
(植木)

アクセス

深谷市原郷（この周辺で屋敷林はどこでも見られます）
北緯 36 度 12 分 7 秒，東経 139 度 17 分 46 秒



(電車・バス)
JR 深谷駅から
徒歩 30 分
(車)
関越道花園 IC
から 20 分

7. 寄居で地球の営みを考える：荒川の段丘



荒川にかかる玉淀大橋から東の方向をながめると、寄居町から旧花園町にかけては、平らな台地の上にあります（写真の左側）。台地は、荒川の谷に刻まれています。台地は、昔、荒川が流れていた河原です。川が作った台地を段丘（だんきゅう）と言い、それを刻む川の崖を段丘崖（だんきゅうがい）と言います。

地球の気候は、暖かくなったり、寒くなったりを繰り返しています。今から 2 万年くらい前は、氷期（氷河時代）と呼ばれる地球全体が寒い時期でした。そのころは、雨が少なく、川の水も少なかったので、荒川は下方向よりも横方向に岩を削りました。そして、広い河原を作りました。

その後、1万年前ごろから地球全体が暖かくなりました。雨が多くなり、川の水が多くなったので、荒川は下方向に岩を削り、谷を作りました。そして、氷期にできた河原は段丘になりました。

このように、荒川の地形は地球全体の気候の変化に影響を受けています。寄居の地形を知ることによって、地球全体の自然の変化を知ることができるのは、地理や地学の醍醐味の一つでしょう。（植木）

アクセス

大里郡寄居町の玉淀大橋付近

北緯 36 度 7 分 14 秒 東経 139 度 12 分 40 秒



(電車)

東武鉢形駅から
徒歩 15 分

秩父鉄道桜沢駅
から徒歩 10 分

(車)

関越道花園 IC から
8 分

8. 全国名水百選「風布（ふうっぷ）の水」



日本水（やまとみず）



現在の水汲み場

寄居町の南西部、釜伏山の北面の谷間は「風布（ふうっぷ）」という地名がつけられています。地元では、「ふっぷ」、「ふうぷ」とも言います。変わった地名ですが、霧がよく発生し、風が吹くと霧が煙のように立ちこめて、山の中腹を布のように覆いつくすことから付けられたそうです。

日本水（やまとみず）というわき水を源流とする風布川は、釜伏山の谷間を流れる清流として、昭和 60 年の「全国名水百選」に選ばれました。埼玉県には、当時の百選に選ばれた水はここだけでした。今は、水源への立ち入りが禁止されており、少し離れた道路脇まで水が引かれています。

日本書記の神話に出てくる日本武尊（ヤマトタケルノミコト）が戦争での勝利を祈って、山の中腹の岩壁に剣を突き刺したところ、たちまち水が湧き出したという伝説があります。

その伝説から、さまざまな御利益を求めて、多くの人が水をくみに来ています。現在は、寄居町風布川・日本水名水保存会の人々が定期的なそうじや「名水まつり」を行ない、地域の自然へ愛情を注ぎ続けています。（植木）

アクセス

大里郡寄居町風布（日本水の水汲み場）

北緯 36 度 5 分 58 秒 東経 139 度 8 分 27 秒



(電車)

JR・東武寄居駅
からタクシー

(車) 関越道花園 IC
から 25 分

9. 天下の景勝地「長瀬（ながとろ）」



国の天然記念物「長瀬」は、大正 13 年（1924 年）に指定されました。そのなかでも岩畳が最大のみどころです。

岩畳は、荒川の左岸に幅 50 m、長さ 500 m も広大な範囲に平らな岩盤（結晶片岩）が露出しており、荒川の流れや右岸側の岩壁とともに独特の景観を形作っています。

結晶片岩は、地下の約 30 km の深さで元の鉱物が別の鉱物に変化した岩石です。地下深くのことが判る岩石が露出しているので「地球の窓」と呼ばれています。岩畳はこの結晶片岩の岩盤がひな壇のようになっている岩石段丘なのです。くわしく見ると、西側に旧流路跡が沼や水たまりを作って連なっており、「四十八沼」と呼ばれています。岩畳本体には 3 段の段丘面があり、荒川の流路の変遷を反映していると思われます。溝状のへこんだ部分にはポットホールが見られます。

結晶片岩は三波川帯に属し、主に石墨片岩からなりますが、一部に緑色片岩も見られます。岩盤には節理が発達しており、その方向はほぼ南北で、荒川の流路に平行しています。結晶片岩の片理面の傾斜は岩畳付近で緩く、岩石段丘の形成に影響したと考えられます。

埼玉県立自然の博物館前の荒川河床には、「虎岩」と呼ばれるスチルプノメレン片岩の岩があります。スチルプノメレンは鉄やマグネシウムに富む鉱物で、黒～茶褐色で白い方解石などと互層状を呈しており、虎の縞模様に似ています。大正5年(1916年)に宮澤賢治が盛岡高等農林学校に在学中、秩父地方の巡検におとずれ、「つくづくと／「粋な模様の／博多帯」／荒川岸の／片岩のいろ」という短歌を詠んでいます。この虎岩の幾何学的な模様を博多帯の文様にたとえて詠んだものとされています。(楡井)



アクセス

秩父郡長瀬町(岩畳付近)

北緯 36 度 5 分 39 秒

東経 139 度 6 分 58 秒

(電車)

秩父鉄道長瀬駅下車 5 分

(車)

関越道花園 IC から 35 分

10. 日本の地質百選「ようばけ」



日本の地質百選に選ばれた「ようばけ」の名の由来は，“太陽の当たる崖”という意味合いと言われます。農作業のかたわら、畑に陽が落ちても夕陽に輝き続ける崖がそう言わせたのでしょうか。秩父では崖のことを「はけ」と言います。赤平川左岸の巨大な崖の地層は、秩父が海だった 1500 万年ほど前（新第三紀中新世）に堆積したものです。浅い海の堆積物と考えられ、カニの化石が人気です。

「おがの化石館」には地元の人が採集し寄贈した化石をはじめ、たくさんの化石が展示されています。化石館のわきの歌碑は、大正 5 年にここを訪れた宮沢賢治とその友人の保坂嘉内のものです。近年、小鹿野町の旅館（現小鹿野観光交流

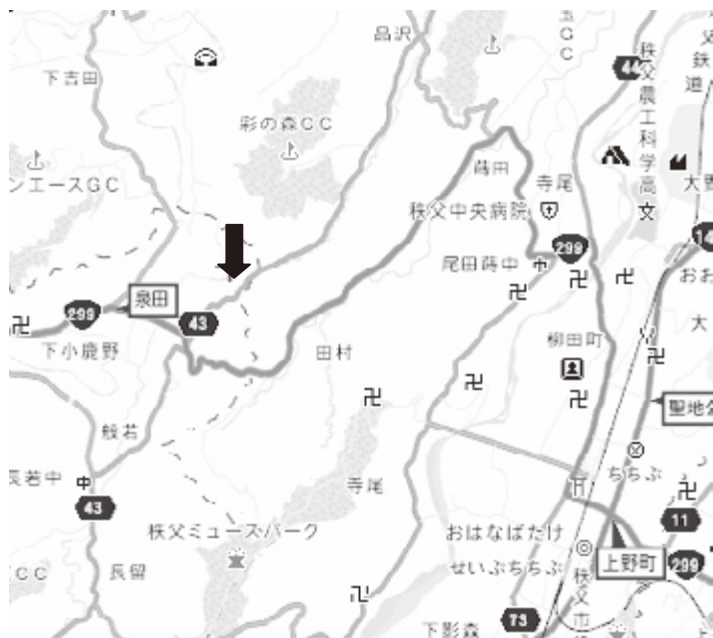
館) から「盛岡高等農林学校一行宿泊す」の記録が見つかり、町での賢治の足跡がはっきりしました。

下流の小坂下や取方の赤平川右岸には、海底地すべりによってできた地層の見事な褶曲（スランプ）が見られます。
(宮城)

アクセス

秩父郡小鹿野町下小鹿野 453 (おがの化石館) 付近

北緯 36 度 1 分 6 秒 東経 139 度 2 分 49 秒



(電車) 西武・秩父鉄道秩父駅からバス，泉田下車徒歩 20 分

(車) 関越道花園 IC から 60 分

11. 宮沢賢治・青春の旅：歌碑をめぐる



記念撮影スポット、ようばけ前の歌碑

賢治にまつわる小さなお話の朗読

「銀河鉄道の夜」や「風の又三郎」で有名な宮沢賢治。1916年（大正5年）9月、若き日の賢治が地質調査・巡検で埼玉県北部をおとずれた際に、数首の歌を書きのこしています。歌碑をめぐると、当時の賢治の旅をたどることができます。

9月2日に熊谷で詠んだ歌。「熊谷の／蓮生坊が／たてし碑の／旅はるばると／泪あふれぬ」, 「武蔵の国／熊谷宿に／蠅座の／淡々ひかりぬ／九月の二日」。これらの歌碑は熊谷市の八木橋百貨店前（熊谷市仲町74）にあります。

9月3日に寄居から長瀨で詠んだ歌。「毛虫焼く／まひるの火立つ／これやこの／秩父寄居の／ましろきそらに」, 「つくづくと／「粋なもやうの／博多帯」／荒川ぎしの／片岩のいる」, 「山峡の／町の土蔵の／うすうすと／夕もやに暮れ／われらもだせり」。前の2つの歌碑は寄居町の熊谷保健所寄居支所前（大里郡寄居町寄居653-1）、最後の歌碑は小鹿野町役場前（小鹿野町大字小鹿野89）にあります。

9月4日に小鹿野の「ようばけ」からの帰り道で詠んだ歌。
「さわやかに／半月かかる／薄明の／秩父の峡の／かへり道
かな」。この歌碑は小鹿野町のおがの化石館前（小鹿野町大字
下小鹿野 453）にあり、隣には賢治の一学年下で親友だった保
坂嘉内の歌碑が仲良く並んでいます。この日の暦を再現する
と、実際に半月がかかっていたようです。9月5日から6日
にかけて、賢治は三峯山、橋立鍾乳洞などを見学し、7日に秩
父から東京に戻りました。

「ようばけ」とは、「夕陽」が当たる「はけ（崖）」という
意味だと伝えられています。なんてドラマチックなネーミン
グでしょう！賢治とようばけ、それだけでこの場所には何か
がおこりそうな気がしませんか？私が訪れた日はあいにくの
雨もようでしたが、白い霽のかかったようばけにはむしろ「何
かがおこりそうな感じ」が濃厚にただよっているように感じ
ました。

この場所を訪れるのはどんな人だろう。地質好き？賢治フ
ァン？どうしてもここに来なければならぬ状況ってなんだ
ろう？何かがおこるならきっと、夕方から夜に向かう時間…。
そして、賢治が過去と未来を結びつけてくれる、ちょっぴり
不思議なお話ができあがり、11月の講演会で朗読させていた
だきました。このちいさなお話が、今後も機会を得て、この
場所を体験するひとつのきっかけに育ってゆけば、とっても
うれしく思います。（平野）

歌碑へのアクセスは車で。

12. 海なし県にも砂丘がある：河畔砂丘



鳥取県の鳥取砂丘は、海岸にある砂の山です。波打ちぎわから砂が風で吹き飛ばされて、たまってできました。鳥取砂丘以外にも、砂丘は全国の海岸に見られます。でも、海のない埼玉にも砂丘があります。

加須市志多見（しだみ）というところの松林の中に、こもりした丘が続いています。足元を見ると、さらさらの砂でできています。風で飛ばされてきたきれいな砂です。なぜこんな場所に砂丘があるのでしょうか。海岸以外でも、砂がたくさん運ばれてくる場所には砂丘ができます。愛知県の木曾川は砂をたくさん運ぶ川で、川のそばに砂丘ができています。川が作った砂丘を河畔（かはん）砂丘といいます。それでは志多見の砂丘の砂を運んだのはどの川でしょうか。

砂丘の北側には会の川という細い水路があります。この川は、江戸時代のはじめ頃までは利根川の本流だったと言われています。利根川の河原にたくさんの砂が運ばれ、冬のからっ風で吹き飛ばされて、砂丘ができたのでしょうか。会の川沿いには、ほかにも何か所かで砂丘がありました。が、工事で砂を使うためにだいぶ削り取られてしまいました。（久保）

アクセス

加須市志多見 1700 付近

北緯 36 度 8 分 8 秒，東経 139 度 33 分 10 秒



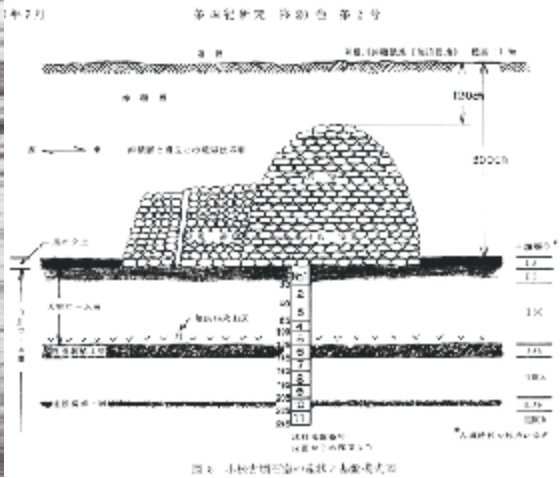
(電車)

東武南羽生駅から
徒歩 25 分

(車)

東北道加須 IC から
20 分

13. 埋もれつつある古墳



羽生市小松古墳（注 1）

小松古墳（注 2）

行田市のさきたま古墳群へ行くと、大きな前方後円墳や円墳がみられます。古墳は 5 世紀から 7 世紀頃、このあたりで力を持っていた人たちのお墓です。たくさんの人が働いて、地面に土を盛りあげてつくられています。でも、北部の利根川のそばやおとなりの羽生市には、地面の下にかくれてしまった古墳があります。昔は地面から盛り上がっていたのに、千何百年もの間に地面がだんだん沈んでしまい、砂や泥でおおわれてしまったのです。

羽生市の小松古墳は、1979 年に水道工事のときに石でつくられた古墳の一部がみつかりました。昔の地面は今の地面から 3 m も下になってしまっています。本当は、洪水の来ない

台地の上だったのに、関東平野のまん中では少しずつ地面が沈んでいき、低くなったところに利根川の洪水で運ばれた砂や泥がたまって埋められていきます。こうして、関東平野のまん中では地面が沈む運動が続き、砂や泥が厚く積もり続けています。（久保）

注1 羽生市教育委員会提供（久保純子 2011 季刊考古学 115：89-92）

注2 細野衛・佐瀬隆 1989 第四紀研究 28：79-93

アクセス



羽生市小松（小松神社）
ただし、古墳は地面の
下で見られません。

北緯 36 度 9 分 22 秒，
東経 139 度 31 分 37 秒

（電車）
東武羽生駅から徒歩 20 分

（車）
東北道羽生 IC から 15 分

14. 埼玉県の魚「ムサシトミヨ」



ムサシトミヨはトゲウオ科トミヨ属の一種で、大人でも体長は約 5 cm ほどの小型の魚です。背中には 8～9 本のとげがあります。オスが巣をつくり子育てし、冷たく澄んだわき水を好みます。

ムサシトミヨは昔は関東各地で見られましたが、現在は熊谷市久下の 1 年を通して冷たいわき水が出ている、元荒川源流部にのみにすんでいます。埼玉県レッドリスト、環境省レッドリストで、ともに絶滅危惧ⅠA 類です。平成 3 年に生息地が県の天然記念物に指定され、同年埼玉県の魚に、平成 23 年には熊谷市の魚に選ばれました。

ムサシトミヨの仲間であるトミヨ属は、サハリソウ、中国東

北部、シベリア、ロシアの沿岸、日本では北海道から東北にかけて連続的に分布しており、寒冷地を好む魚であることがわかります。ムサシトミヨの生息地は、それらの分布域に比べるとかなり南にあたり、また飛び地で離れています。

埼玉県のムサシトミヨは、もともと北にすんでいたトミヨ属が氷期（氷河時代）に生息範囲を南に広げたものです。氷期が終わって温かくなったため、分布が寸断されて周辺と隔離されました。そのため、現在まで生き残った「氷期の遺存種」であるといわれています。（杉内）

※写真は元荒川源流部のムサシトミヨ生息地とムサシトミヨ

アクセス

熊谷市久下（元荒川源流部ムサシトミヨ生息地）

北緯 36 度 7 分 55 秒 東経 139 度 23 分 48 秒



（電車）

JR 熊谷駅から
徒歩 20 分

（車）

関越道東松山 IC
から 20 分

15. 埼玉県発祥の地：さきたま古墳群



行田市大字埼玉（さきたま）は、埼玉県という名前の発祥の地です。ここには、5世紀から7世紀の大型の古墳が9基も集まっています。古墳の形は、丸いもの（円墳）、丸と台形が合体したもの（前方後円墳）があります。古墳のまわりには周溝といわれる堀がめぐっています。古墳全体は公園として整備され、映画「のぼうの城」の舞台にもなりました。

古墳を掘ってみると、昔の人が使っていたさまざまなものが出てきます。稲荷山古墳からは、金色の文字が刻まれた鉄の刀（鉄剣）が見つかり、国宝となっています。将軍山古墳では、横穴式の石室に死んだ人を置きました。馬のかぶとな

ど、朝鮮半島から輸入されたものも見つかりました。

このような大きな古墳を作ったのは、どのような人だったのでしょ
うか？さきたま地域を支配していた、よほど力とお金がある人（豪族）
だったのでしょ。なお、国宝の鉄剣を展示する博物館もありますので、
ぜひご覧下さい。（植木）

アクセス

行田市大字埼玉 4834

北緯 36 度 7 分 32 秒，東経 139 度 28 分 49 秒付近



(電車・バス)

JR 吹上駅から
バス「産業道路」
下車徒歩 15 分

(車)

関越道東松山 IC,
東北道羽生 IC
から 30 分

さきたま自然の博物館は大人 200 円の入場料が必要です。

博物館 HP <http://www.sakitama-muse.spec.ed.jp/>参照。

16. 古代からの花の使者：古代蓮



1971年（昭和46年）に、行田市の焼却場工事の際に地下の地層が掘り起こされました。その2年後に、工事でできた池の中に、地層の中に含まれていたはずの種から花が咲いているのが見つかりました。そのはずは、今から1,400年前から3,000年前のもので、古代蓮（こだいはす）と呼ばれ、市の天然記念物になっています。はずは6月下旬から8月上旬まで、かれんなピンクの花をさかせます。

現在、行田市によって自然公園「古代蓮の里」が整備され、10万株の古代蓮と2万株の世界のはすが植えられています。また、はずの資料館「古代蓮会館」もあり、蓮に関するさまざまな資料が展示され、行田市の自然も紹介されています。

「古代蓮の里」の東の田んぼには、色の違うお米を植えて、巨大な絵を作る「田んぼアート」が行われています。

古代蓮が生えていた時、荒川が洪水のたびに流れを変えて、あちらこちらに池や湿地ができたのでしょ。古代蓮は、昔の荒川の証言者なのです。近くのさきたま古墳群とあわせて、

「古代蓮の里」をおとずれてみてください。 （植木）

アクセス

埼玉県行田市大字小針 2375

北緯 36 度 7 分 55 秒 東経 139 度 29 分 58 秒付近

（電車） JR 行田駅からバス「古代蓮の里」下車すぐ

（車） 関越道羽生 IC から 20 分



写真は、旅に行き隊！ HP (<http://www.tabi2ikitai.com/>) から提供していただきました。

17. 荒川のつけかえと昔の川のあと



1947年（昭和22年）撮影の空中写真（吉見付近）

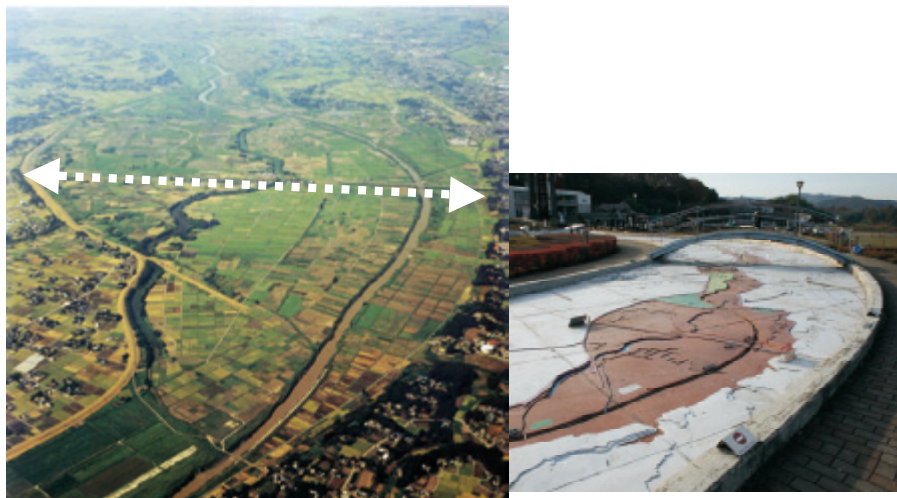
熊谷市久下のあたりから行田，吹上を通り，鴻巣，菖蒲，蓮田，岩槻，越谷を経て，県南の吉川で中川と合流する元荒川という川があります。その名の通り，もとの荒川と言われています。この元荒川は，今の荒川とはまったく別の場所を流れていたのです。

江戸時代のはじめ頃，徳川幕府は元荒川（もとの荒川）か

ら今の荒川へ、川のつけかえ工事（瀬替え）をしたといわれています。久下のあたりから大里のあたりまで新しく川を掘って、比企丘陵（森林公園のあたり）から流れてくる和田吉野川という川とつなげて、下流で入間川と合流させたとされています。

でも、吹上から鴻巣にかけての元荒川は本当に幅のせまい川で、あばれ川の荒川が全部ここを流れていたとは思えません。その代わり、吹上から吉見の方にかけて、昔の川のあとを示す地形がいくつか見られます。田んぼの中に、細長く畑や道路、古くからの家などが続く部分があります。田んぼと比べると 50 cm から 1 m 位高くなっていて、空から見ると、蛇のすすむようにくねくねと曲がった形をしています（上の写真でさがしてみてください）。このような場所を自然堤防と言って、昔の川沿いに、洪水の時にあふれて砂や泥が積もってできた地形です。いつごろのものかはまだよくわかりませんが、昔の川のあとがところどころに残されているのです。（久保）

18. 川幅日本一



吉見付近の荒川河川敷（注 1）

川の博物館の荒川大模型

鴻巣と吉見の間の荒川の御成橋の両側には、「川幅日本一」という柱があります。荒川の水が流れているところは幅 30 m 位しかないし、もっと海の近くでは幅数百 m もあるのに、なぜ日本一なのでしょう。

「川幅日本一」の柱には、荒川の川幅が 2,537 m と書かれています。これは、鴻巣市側の橋のはじまる場所から吉見町の堤防のところまでを遊水地といって、川の水があふれてたまるように広くしてあるところなのです。ふだんは水が流れていなくても、堤防でくぎって川の水があふれてもいいところを河川敷と呼び、この河川敷の幅が日本一なのだそうです。

上の写真では右側のまっすぐな川が荒川ですが、左側に昔の荒川の跡がくねくねした細長い沼になって残っています。川幅日本一の部分の道路は、河川敷よりも高い土手のようなところを通っています。これは横堤（よこてい）といって、洪水をせきとめる役割をします。

荒川の下流には東京の町が広がっています。上流側の埼玉県を流れる部分は川幅をととても広くして、横堤をたくさんつくって、洪水のときに水をためる働きをしているのです。ふだんは公園やグラウンドになっているところもありますが、何年かに一度は、河川敷いっぱい水がたまる様子が見られます。（久保）

注1 建設省（現国土交通省）荒川上流工事事務所 1996

荒川流域地形分類図説明書



19. 山にぼこぼこ開いた穴は何？：吉見百穴



これは蜂の巣ではありません。山の斜面に人間が開けた 200 個以上の穴で、吉見百穴（ひやくあな）と呼ばれています。横穴式古墳という 6 世紀から 7 世紀の古墳時代のお墓です。穴の中にはベッドのような段が作られ、死んだ人が置かれていました。明治時代には、この穴は小人（コロボックル）が住んでいた跡と考えられていましたが、ちょっと小さすぎますね。いくつかの穴の中には、暗がりでも緑色に光って見えるヒカリゴケという珍しいコケが生えています。

地面に近い所には、人が立って歩けるくらいの大きな穴があります。この穴は、戦争中に日本軍が作った地下軍事工場

です。しかし、実際にはほとんど何も作られないうちに、戦争が終わってしまいました。

吉見百穴のある地層は、中新世（1,500 万年前ごろ）という時代に海の中で堆積した砂からできています。地層が軟らかいので、多くの穴が掘られたのでしょう。（植木）

アクセス

比企郡吉見町大字北吉見 324

北緯 36 度 2 分 23 秒，東経 139 度 25 分 23 秒



(電車・バス)
東武東松山駅，JR
鴻巣駅からバス
百穴入口下車
(車)
関越道東松山 IC
から 15 分

吉見百穴は大人 300 円の入場料が必要です。

吉見町役場 HP <http://www.town.yoshimi.saitama.jp/>参照。

20. こんな家に住みたい：西川材の家



木の香りと木の温もりを感じる家。そんな家を作る材木やさんが飯能にあります。

西川材は埼玉県 の 県西 で 取 れ る 材 木 の 総 称 で、 す ぎ や ひ の

きが主体です。江戸の西の方の川からいかだで運ばれた材木であることから、そう名付けられました。

環境によいとか地産地消（地元のもの地元で消費する）の意識の高まりや、インターネットで情報が伝わりやすくなったことから、今、国産材が見直されてきています。年月がたつほどに味わいが出てくる家を、地元の木材を使って建ててみたいですね。大河原木材では、あらかじめ連絡を入れれば、家の見学もさせてくれるそうです。（植木）

アクセス

飯能市大河原 89（大河原木材本社） 042-973-1521

見学できる家は別の場所にあります。

北緯 35 度 51 分 18 秒，東経 139 度 18 分 32 秒



（電車）
西武飯能駅から
徒歩 20 分
（車）
圏央道狭山日高
IC から 30 分

21. 飯能の里地里山おすすめスポット



里地里山とは、昔から人と自然とが一緒に暮らしてきた場所です。そこには地域の人びとの生活習慣や文化があり、そして様々な動植物が住んでいます。そんな里地里山の魅力を感じることでできるスポットが、飯能市の天覧山（てんらんざん）周辺です。天覧山は市街地からも近く、高さは195 m。登山口から約30分足らずで頂上まで登ることができます。頂上からは、東は関東平野、西は奥多摩の山々など、天気がよければ東京スカイツリーや富士山も観ることができます。気軽に登れる天覧山とその周辺は、市民の憩いの場になっています。また、市外からも多くの小学校が遠足に訪れています。大正11年には、埼玉県の名勝（景色のよいところ）第一号に指定されています。ふもとには庭園の美しい能仁寺（のうにんじ）という有名なお寺があり、周辺にはムササビやカヤネズミなどの哺乳類や、飯能笹などのめずらしい植物、ホタルやトンボなどの昆虫も数多く生息しています。また、秋には

サシバというタカの仲間が南へ渡るコースにもなっているので、天覧山の頂上からはその姿を観察することができます。このように里地里山の魅力が凝縮された天覧山周辺は、飯能市で行われている「エコツアー」の代表的なコースとなっています。（大野）

アクセス

北緯 35 度 51 分 35 秒

東経 139 度 18 分 43 秒（登山口）

（電車） 西武飯能駅から徒歩 20 分、

JR・西武東飯能駅から徒歩 25 分

（車） 圏央道狭山日高 IC から 20 分



飯能市観光協会公式 HP <http://hanno-tourism.com> も参照。

22. 植物とゾウの足跡の化石をさがそう



メタセコイア オオバタグルミ アケボノゾウの足跡

飯能市から入間市にかけての入間川の河原には、仏子（ぶし）層と呼ばれる泥や砂からなる地層が露出しています。仏子層はおよそ 200 万年前に川のそばの湿地で堆積した地層で、当時そこに生えていた植物の化石を多く含んでいます。地層の中には材木の破片や根の化石が多く見られますが、運が良ければ、メタセコイア、オオバタグルミなどの今は絶滅してしまった植物の実や種が見つかります（ただし、ぺちゃんこにつぶれています）。植物の茎や根が特に集まると、亜炭（あたん）という石炭の一種になります。亜炭の中には、きれい

な昆虫の羽の化石が見つかることもあります。飯能市阿須には、日本で唯一の亜炭鉱山の武蔵野炭鉱があります。

市民運動場の西では、泥のへこみを砂が埋めています。その一部は今は絶滅してしまったアケボノゾウの足跡です。ゾウが湿地を歩き回り、その後、洪水によってその足跡が砂で埋められてしまったのです。このように、入間川の河原は化石の宝庫なのです。（植木）

アクセス

入間市野田の西武市民運動場付近

北緯 35 度 50 分 23 秒，東経 139 度 21 分 2 秒



(電車)
西武仏子駅、
元加治駅
から徒歩
10分

(車)
圏央道狭山
日高ICから
15分

23. 埼玉にもいたゾウ：アケボノゾウ



自然の博物館所蔵の
アケボノゾウ化石



↑臼歯化石



↑体の骨の化石

大きな頭と牙，これはかつて埼玉に生息していたゾウの骨格標本です。現在，ゾウの仲間アジアとアフリカの一部にしか生息していません。もちろん日本には住んでいませんが，数万年前まで日本にもゾウが住んでいました。これらのゾウ

は、現在生き残っているアジアゾウやアフリカゾウとはまた違う種類でした。写真のゾウは、現在はいない種類でアケボノゾウという名前です。この骨格標本は、昭和 50 年（1975 年）に狭山市笹井の入間川砂岩の崖でみつかった化石をもとに、復元されたものです。化石は仏子（ぶし）層という 150 万年前から 100 万年前に堆積した地層からみつかりました。現在、この化石は埼玉県天然記念物に指定されています。

アケボノゾウは 250 万年前から 120 万年ほど前まで生きていた化石ゾウで、その大きさ（肩までの高さ）は約 1.8 m ほどと小型のゾウでしたが、もともとは肩の高さが 4 m を超えるような大きなゾウから進化しました。一般に、日本の様な島国に大陸から渡ってきた大型の生物は、体の大きさが小さくなること（矮小化（わいしょうか））が知られています。逆に小さな動物は、島の方が大きくなる場合があります。アケボノゾウ化石はこのような進化の不思議を教えてくれます。

このアケボノゾウの骨格標本は、埼玉県立自然の博物館のほかに、狭山市立博物館にも展示されています。どちらか近くの博物館でぜひ見て下さい。（北川）

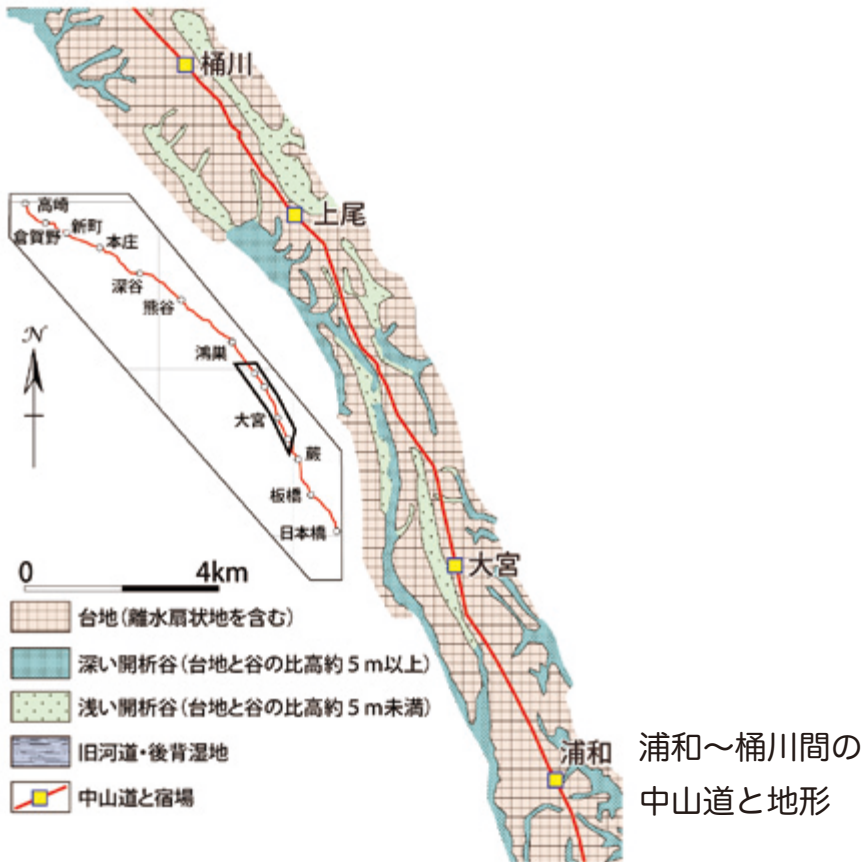
アクセス 狭山市稲荷山 1-23-1（狭山市立博物館）

北緯 36 度 7 分 55 秒 東経 139 度 29 分 58 秒

（電車） 西武稲荷山公園駅から徒歩 3 分

（車） 圏央道狭山日高 IC から 15 分

24. 大宮台地の中山道の秘密



江戸と京都を結んでいた江戸時代の街道である中山道が埼玉県内のどこを通っているか、ご存じですか。JR 高崎線の線路は、中山道のルートに沿ってつけられています。また、県内の中山道の宿場があった街は、その後、すべて JR 高崎線の駅が置かれています。

浦和から桶川までの距離約 30 km の中山道は、大宮台地と

呼ばれる台地の上を通っています。大宮台地は、およそ9～12万年前の浅い海の地層や利根川や荒川の地層によってできています。そのため、台地の上は、北から南に向かって緩やかに傾いています。ただし、数万年にわたり台地となっているので、台地の際からの細長い谷によって台地が侵食されています。

中山道は、なぜ大宮台地の上を通っているのでしょうか。それは、台地の上は水害に遭いにくい上に、緩やかな起伏なので歩きやすかったからです。しかも、図をみると、中山道のルートは、台地中の細長い谷を避けて、細かく曲がっているのがわかると思います。もし谷を横切ると高低差が生じることになるので、それを避けて道がつけられているのです。

もちろん、この道は、中山道と呼ばれる前からあったと思います。しかし、江戸時代初期、江戸と京都を結ぶ幹線道路を制定する際、数多くあった野道の中から、この道が選ばれた理由として、他の道に比べて、水害に遭いにくく、歩きやすいことが挙げられるのです。

中山道を知るには、徒歩で歩いてみるのが一番です。現在では、周りの景観は、江戸時代の頃とは大きく変わっていますが、道ばたには、当時からある道祖神や石碑などが残っています。大宮台地の中山道を歩きながら、土地の起伏にも注目してみると、中山道の通る場所が一番高いことにも気づくと思います。（熊原）

25. トトロのふるさと：狭山丘陵



首都圏の市街地の海に浮かぶ緑の島「狭山（さやま）丘陵」は、武蔵野の面影を今に残しています。雑木林が広がるゆるやかな丘のそこそこに小さな谷がきざまれ、多くの動植物が息づいています。

「狭山丘陵」の見どころはたくさんありますが、所沢市の三ヶ島にある「比良の丘」からの眺めは最も「狭山丘陵」らしい景観と言って良いでしょう。特に、この写真に見られるような初春、雑木林（ぞうきばやし）の木々が芽生える頃は、日々緑が膨らんで「山が笑う」ように見えます。

この丘の下には丘陵最大の「三ヶ島湿地」が広がっています。湿地は、約 2 万年前の後期旧石器時代の「砂川遺跡」が

ある「砂川堀」の源流となっています。春、湿地の水たまりでバナナの形をした奇妙な寒天質のものを見つけることができます。トウキョウサンショウウオの卵です。1年の大半を雑木林の落ち葉の下で暮らす両生類で、毎年3月の中旬頃から水たまりに産卵します。他にもイモリ、アカガエルなどの雑木林と湿地を生息場所とする多くの両生類が見られ、「狭山丘陵」の豊かな自然の指標生物となっています。（対馬）

アクセス

所沢市三ヶ島（比良の丘）

北緯 35 度 47 分 10 秒 東経 139 度 23 分 25 秒



(電車・バス)

西武小手指駅から
バス、堀之内下車
徒歩 15 分

(車)

圏央道入間 IC
から 20 分

さいたま緑の森博物館

HP <http://saitama-midorinomori.jp>も参照。

26. 埼玉県立川の博物館



寄居町の玉淀大橋の東側，荒川右岸の河岸段丘上に大水車を目印として，川の博物館があります。「荒川を中心とする河川や水と人々の暮らしとのかかわり」をテーマとして，平成9年（1997年）に「さいたま川の博物館」として開設され，平成18年（2006年）に「埼玉県立川の博物館」と名前を変えました。

屋外でのみどころの一つは，写真にもある「荒川大模型173」です。荒川の源流である甲武信岳から河口の東京湾までの173 kmを1000分の1の173 mに縮小した地形模型で，屋外の精密地形模型としては日本一の大きさです。荒川流域の地形をガリバーになった気分で観察することができます。

す。ボタン操作でダムや水門の開閉を行い、治水施設の学習も行うことができます。

屋内でのみどころの一つは、第一展示室内で実際に水を流しながら行う鉄砲堰の放水実演イベントで、1日数回あり、大迫力です。また、アドベンチャーシアターという、大画面に連動して座席が動くバーチャルシアターもあります。

第二展示室や第一展示室内のスロープでは、年間数回の企画展示を行っています。イベントも年間を通して、子どもが楽しめるものから大人向きのものまで、様々な企画を立てて行っています。詳しくはホームページをご覧ください。

(杉内)

入館料：大人 400 円、学生・生徒 200 円

ただし中学生以下、65 歳以上、障害者手帳をお持ちの方と介護者 1 名は入館無料

博物館 HP <http://www.river-museum.jp/>

アクセス

大里郡寄居町小園 39

北緯 36 度 6 分 57 秒 東経 139 度 13 分 10 秒

(電車) 東武鉢形駅から徒歩 20 分

(車) 関越道花園 IC より 8 分

27. 埼玉県立自然の博物館



長瀬（ながとろ）の荒川左岸に、昭和 56 年（1981 年）、「埼玉県立自然史博物館」として開設された、埼玉県唯一の自然系博物館です。平成 18 年（2006 年）「埼玉県立自然の博物館」と名前を変えました。

秩父地域は、明治 11 年（1878 年）にお雇い外国人の E. ナウマンがいち早く地質調査をし、日本の地質に関する先駆的な研究が行われるとともに、多様な地質が見られることから、古くから地質の見学地として有名です。このようなことから地質見学旅行が盛んになり、「地質学発祥の地」とも呼ばれています。こうした背景があって、長瀬に自然の博物館が設置されています。

埼玉県立自然の博物館は、埼玉の自然をテーマに、自然を

総合的に扱える県内唯一の博物館として、埼玉の自然とその変遷に関する生物・岩石・化石資料や、自然と人との共生に関する資料を展示・収集しています。

おもな展示は、生物展示ホールでは 4 つの森のジオラマで埼玉の自然の多様性を紹介しています。屋外には埼玉県に自生する 21 種類のカエデの仲間を集めた観察園「カエデの森」も見どころの一つです。地学展示ホールでは古生代から始まる 3 億年の大地の歴史を化石・岩石の展示を通して紹介しています。第四紀にかかわる展示では、地形の変遷とアケボノゾウの時代（前期更新世）の化石の展示があります。年間数回の企画展示も行っています。子ども向けの「体験ゾーン」も設置しています。

平成 23 年（2011 年）に日本ジオパーク委員会による日本ジオパークに「ジオパーク秩父」が指定されました。ジオパークは特色のある地形や地質と、その上にある生態系や人々の暮らしと文化を含めたもので、自然の博物館はその学術的な拠点となることが期待されています。（楡井）

アクセス

秩父郡長瀬町長瀬 1417-1

北緯 36 度 5 分 15 秒 東経 139 度 6 分 58 秒

（電車） 秩父鉄道上長瀬駅から徒歩 5 分

（車） 関越道花園 IC から 35 分

28. 日本地質学発祥の地：ジオパーク秩父



秩父は 2,000 m 級の山に囲まれた盆地です。盆地東の美の山（みのやま）公園は、秩父ジオパークの全景を見渡す絶景ポイントです。西・南・北の山は中生代の付加体の堆積岩で、東の山は三波川帯の変成岩です。

盆地を取り巻く山々はジュラ紀・白亜紀の石灰岩やチャートからなる険しい地形をなし、カエデなど原始の森が残り、秋から冬にかけて見事な紅葉や氷柱が楽しめます。盆地の中には、尾田蒔（おだまき）丘陵（高位段丘）や羊山丘陵（中位段丘）が南北に伸び、荒川沿いには古い歴史を語る札所や神社などを楽しむことのできる町並み（低位段丘）が広がっています。

荒川は深いところを流れ、段丘面はどこも水不足でした。人々は桑を植えて蚕を育て、絹を世界に送り出しました。秩父銘仙は秩父の大地の生んだ名産です。蒔田と太田は荒川や赤平川の支流でしたが、上流を切断され浅い川のまま現在にいたり、そこは米どころとなりました。江戸時代の農家やお田植え神事など米との関わりを感じさせる日本の原風景が広がります。（宮城）

アクセス 秩父市大字黒谷・皆野町大字皆野（美の山公園）
北緯 36 度 3 分 26 秒 東経 139 度 6 分 47 秒付近



（電車）秩父鉄道皆野駅，和銅黒谷駅から徒歩 90 分

（車）関越道花園 IC から 40 分

ジオパーク秩父 HP <http://www.chichibu-geo.com/>も参照.

29. 里地里山の宝さがし！

エコツアーのまち飯能（はんのう）



埼玉県西部に位置し、豊かな自然の残る飯能市。市の約76%が山林で、昔から西川材と呼ばれる質の良い材木の産地となっています。ここ飯能市では、里地里山の自然環境や地域の歴史、文化の大切さを、体験を通して楽しく学んでもらうエコツアーを数多く開催しています。エコツアーでは、市民の人たちが中心となり、地域の「宝物」をみなさんにご案内しています。例えば、昔は田んぼだった谷津田（やつだ）と呼ばれる湿地帯に、ホタルやトンボなどの生きものを呼びもどすための水辺をつくるツアーや、里山に住むムササビやコウモリなどの夜行性の生きものを観察するツアー、生きもの探検ナイトツアー、手打ちうどんや昔の遊びをおじいちゃん、おばあちゃんから教えてもらう夏休み田舎体験ツアーなど、小学生でも家族やお友だちと一緒に参加できる楽しいツ

アーがたくさんあります。

「自然がわらう・文化がかおる・心がおどる，エコツアーのまち・飯能」へ，ぜひ遊びに来てください。 （大野）

アクセス

飯能市周辺

（電車） 西武飯能駅，JR・西武東飯能駅から徒歩

（車） 圏央道狭山，日高IC から 20 分



エコツアーに関するお問い合わせ・申し込み先は，
飯能市役所エコツーリズム推進室へ。

電話： 042-973-2123

エコツアーの詳細や情報については，次のホームページで見
ることができます。HP <http://hanno-eco.com/>

30. トトコの森：ナショナル・トラスト活動



狭山丘陵はアニメーション『となりのトトロ』の舞台となったところです。そのため狭山丘陵に広がる雑木林は、一般に『トトコの森』と呼ばれ親しまれています。また、この森を開発による破壊から守るために、日本中の子供たちや大人から4億円にも上る寄付金が「ととろのふるさと基金」に寄せられました。

寄付金で大切な土地を買い取る運動のことを、ナショナル・トラストといいます。そのお金で買い取った狭山丘陵のトラスト地のことを『トトコの森』と呼んでいます。1991年から始まったナショナル・トラストで、『トトコの森』は1号地から18号地まで18ヶ所、約3ヘクタールに上ります。

『トトコの森』をかつての里山のように明るく、多くの生きものたちが住むことのできる森に保つため、市民の手で下草を刈ったりゴミを拾ったりする活動が進められています。また、近くの小中学校の生徒たちは総合学習の時間などに、『トトコの森』でドングリを拾って育て、再び森へ返す活動

や、植物や昆虫、野鳥の観察をして自然と親しみながら里山の自然と歴史を学んでいます。

『トトロの森 1号地』周辺には、水鳥の飛来地として有名な狭山湖や、「いきものふれあいの里」の自然観察スポット2の「虫たちの森」などがあります。 (対馬)

アクセス

所沢市上山口雑魚入り 351 (トトロの森 1号地)

北緯 35 度 46 分 46 秒 東経 139 度 25 分 21 秒



(電車)

西武西武球場
前駅から徒歩
20分

(車)

圏央道入間 IC
から 30分

公益財団法人「トトロのふるさと基金」HP

<http://www.totoro.or.jp/>も参照。

おわりに

昭和 57 年版 さいたま郷土かるた

あ 荒川は豊かな埼玉つくる川	ね 姉さんの幼い思い出ひな人形
い 一枚に心をこめて小川和紙	の 農民の苦しさ語る秩父事件
う 梅の花越生の里の春日和	は はばたけシラコバト県の鳥
え 江戸に米舟で運んだ通船堀	ひ 百穴は古代の人の墓の跡
お 荻野吟子日本の女医第一号	ふ ふるさとの伝統工芸桐たんす
か 金讃の緑を映す鏡岩	へ 平家の士討って涙の直実公
き キューポラのならぶ川口鑄物まち	ほ 宝蔵寺沼ムジナモ国の記念物
く くっきりとだだこ揚がる宝珠花	ま 万葉の昔をしのぶ小崎沼
け 県の旗まがたま十六心の輪	み 見えずとも心で学ぶ埴保己一
こ 子どもの日大空泳ぐ加須の鯉	む 武蔵一の宮氷川神社の大湯祭
さ 狭山湖を香りでつつむ茶の畑	め 明治四年うぶ声あげた埼玉県
し 重忠の面影のこすやかた跡	も 森の道ベダル軽やか森林公園
す 住む人の暮らし支えた野火止用水	や やぶさめて馬に乗る子の勇ましさ
せ 千年の歴史伝える慈光の山寺	ゆ 雄大な流れが光る坂東太郎
そ 空高くのびよ埼玉ケヤキの木	よ 養蚕の技術進めた木村九蔵
た 玉淀に映る鉢形城の跡	ら 羅漢様笑顔泣き顔勢揃い
ち 秩父路の夜空にひびく笛たいこ	り 両神山やシオツツジにコノハズク
つ 土の香にふるさとの味深谷ねぎ	る るり色に輝く秩父湖二瀬ダム
て 鉄剣の百十五文字稻荷山	れ 霊場をまわってお遍路秩父谷
と 栃本の関所越えて甲斐信濃	ろ ローム層郷土をおおう火山灰
な 長瀬は地質の宝庫岩だたみ	わ 輪になって秩父音頭で盆踊り
に 日本の産業育てた渋沢翁	を 埼玉をかざる県花はサクラソウ
ぬ 沼や池代用水で田にかわる	ん 草加宿今に伝わる手焼きせんべ

さいたま郷土かるたは、子供たちに地元埼玉のことを良く知ってもらおうと、昭和 57 年に作られました。かるたには埼玉県歴史、文化、産業、自然、名所などがきれいな絵札と読み札で紹介されています。かるたで遊びながら、郷土を知ることができます。かるた大会は、子ども会の行事として、地区大会から県大会まで勝ち上がる方式で行われています。

平成 14 年版 彩の国 21 世紀郷土かるた

あ 朝露にぬれて輝く古代蓮	ね 眠りからさめたオニバス北川辺
い いざ出陣太平めざし直実公	の 農民の苦しみの形秩父事件
う 宇宙まで夢をとどけた若田光一	は 版木にて歴史をきざみ名を残す
え 栄一も食べたネギ入りにぼうとう	ひ 百穴の自然の宝庫ひかり苔
お おりづるに願いをこめて小川和紙	ふ ふるさとの桜の名所権現堂
か 川越の音なりひびく時の鐘	へ ペーゴマは鑄物のふるさと川口産
き 巾着田真っ赤に染める彼岸花	ほ ホイッスルひびけ心のスタジアム
く 雲よりも高くとんでけシラコバト	ま まが玉は過去と未来の首かざり
け ケヤキの木セミも木かげの夏休み	み 見沼の田歴史を映し空かつぐ
こ 古墳群武蔵の豪族眠る墓	む 武蔵野の面影残る平林寺
さ サクラソウかれんに優しく県の花	め メロディにふるさとのせて下總統一
し 初夏つつじ秋は紅葉の両神山	も 森の中トトロをさがす大冒険
す 澄みきった空に向かって龍の舞	や 流鏑馬で矢を射る子らの武者姿
せ 清流に 生き長らえよ ムサシトミヨ	ゆ 夢の森笑顔あふれるミュージックパーク
そ そびえ立つ高山不動の大イチョウ	よ 嫁に行く娘に親から桐タンス
た 体育祭秩父音頭でもり上がる	ら 羅漢さまどこか似ている友だちに
ち 町民が蕪木役者の小鹿野町	り 林業に命捧げた本多静六
つ 通船堀江戸まで結ぶ川の道	る ループ橋雁坂越えて桃の里
て 伝統のささら獅子舞受け継ぐ子	れ 連綿と催馬楽神楽響きあり
と 遠い旅道筋語る利根の水	ろ ローム層赤土吹き上げ風に舞う
な 夏の夜鉢形城に咲く花火	わ 和装の美今に伝えるひな人形
に にらめっこ武州だるまの目を入れて	を 女医一号 未来を開いた 荻野吟子
ぬ ぬくもりが藤からあふれる玉敷神社	ん シンボルはさいたまアリーナ新都心

さいたま郷土かるたは、平成 14 年に新しくなりました。読み札と絵札は、新たに子供たちが考え、描いたものです。

これらのかるたには、このハンドブックに紹介していない埼玉県の自然や人間の営みがいっぱい取り上げられています。まだまだ知らない、行ったことがない郷土のよいところがたくさんあると思います。ぜひ、みなさんの目、耳、口、手、足などの五感を使って、地元の知られざる宝物を発掘して下さいね。（植木）

内容についての問い合わせ

植木岳雪（うえきたけゆき）

産業技術総合研究所地質情報研究部門

〒305-8567 茨城県つくば市東 1-1-1 中央第 7

電話：029-861-9126, メール：gakusetsu-ueki@aist.go.jp

編集・執筆

植木岳雪（産業技術総合研究所地質情報研究部門）

編集協力

埼玉県立川の博物館, 埼玉県立自然の博物館

執筆（順不同）

久保純子（早稲田大学教育学部）

杉内由佳（埼玉県立川の博物館）

楡井 尊（埼玉県立自然の博物館）

熊原康博（群馬大学教育学部）

宮城 敏（秩父市役所産業観光部）

大野 悟（飯能市役所環境部エコツーリズム推進室）

対馬良一（財団法人トトロのふるさと基金）

平野麻樹子（女優, 横浜市在住）

宮嶋 敏（埼玉県立深谷第一高校）

北川博道（埼玉県立自然の博物館）

*このハンドブックは、文部科学省科学研究費補助金（研究成果公開促進費）「彩の国さいたままで自然の歴史を発見しよう」の補助を受けました。

「彩の国さいたま県北・県西の自然を楽しむハンドブック」

発行日 平成 24 年 12 月 11 日

発行 日本第四紀学会

〒169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号

新宿ラムダックスビル 10 階 株式会社春恒社 学会事業部内

日本第四紀学会事務局 TEL: 03-5291-6231

印刷製本 谷田部印刷株式会社

〒305-0861 茨城県つくば市谷田部 1979-1 TEL: 029-836-0350